

課題分析		授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなは、ほぼ書けるようになった。 ・文章を読むこと（内容理解を含む）に個人差がある。 ・書くこと（長音、促音、拗音）の定着に個人差がある。 ・タブレットのログイン、使い方は、2学期から始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を想像しながら音読させる。また、叙述に即して、正しく読み取らせていく。 ・朝学習などを活用し、繰り返し練習をさせていく。 ・朝のICTの時間などにタブレットを使う機会を増やす。オクリンクプラスの提出ボックスを利用し友達の考えを参考にしたり、自分の考えを書いたりできるよう指導していく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習では、児童がわかりやすいサイトを選ぶことが難しかったり、見つけても文章を読むことができず、理解できなかつたりすることが多く見られる。 ・ドリルパークに慣れ親しんでいるが、計算問題が苦手な児童は、ドリルパークを使用するのに苦手意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師があらかじめ、児童がわかりやすいサイトを選んでおき、クラスルームなどで送っておくようにする。また、ルビをふる方法を指導する。 ・サイトを書き写しても、本人が理解できていないと意味がないことを根気強く指導する。ポスターを作る際、自分の言葉でまとめるように指導する。 ・学習が苦手な児童には、1年生の内容からドリルパークに取り組ませ、既習事項の確認をさせたり、手書き計算機能を使わせたりする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング練習アプリに慣れ親しんでいる児童が多く、区の目標である1分間に10文字程度入力できる児童が多い。一方、自分の考えをまとめながら文章を打つことには個人の能力差が大きい。 ・調べる活動を行う際、適切な言葉で検索することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、朝のICTの時間を中心に、正しい指の位置を意識させながら、タイピング練習に取り組ませる。また、単語だけでなく、文章を打つ機会も設定していく。 ・文章でなく、キーワードで入力して検索すること、できるだけ公的なサイトを使うことを繰り返し指導していく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングは、各自の力量に合わせて練習している。正確に速く打てる児童もいるが、ローマ字表を見ながら打ち込んでいる児童もいる。 ・Google フォームでアンケートを作成したり、スライドで学習のまとめをしたりしているが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のICTの時間を利用し、タイピングの練習に取り組ませる。 ・計画的にICTツールを利用する学習内容を取り入れる。児童の活用能力を向上させるため、ICT支援員の協力を得る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングの技能（正確さ、速さ）の差があり、自分の考えを表現する際に影響が出ている。 ・タブレット上での計算を苦手にしている児童がいる。 ・個々の学習のスピードに差が出てきており、個に応じた指導が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のICTの時間において、タイピングの基本的な指の位置を意識させながら、タイピングの練習に取り組ませる。 ・問題に応じて、ドリルパークとプリントを使い分けていく。ドリルパークでは、即座に正誤の確認ができる機能を活かして、正しく計算する力を高めていく。 ・個別に課題を配信したり、資料を展開したりすることで個に応じた指導をできるようにする。

6年	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。 また、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られた。 算数では、分数の計算自体はできるが、その計算式の意味を数や言葉で説明することや数直線上に示された数を分数で表すことに課題が見られた。 理科では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物がどれであるかの分別や、顕微鏡の操作の仕方を問う問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で、共有アプリなどを使ってどんな目的や意図があるのかを意識させながら友達の考えや提出物を見る時間を確保する。必要に応じて教員が説明を行う。 教員側で「大人向け」や「1年生向け」といった目的や意図を明確に指定した形で、文章や作品作りといったまとめ活動を行う。また出来上がったものを読み合い、どうしたらよかつたか振り返りを行う。 デジタル教科書などを活用し、視覚的に分数の数字と数直線を結びつけることで基準となる数を見いだし、数量の関係を捉えられるようにする。 共有アプリを有効活用し、友達同士で立式や計算の説明をし合うことなど、数学的な用語や表現について知識の習得と習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていく。 ドリルパークなどを活用して、既習事項の復習を行う。 実際に実験を行う時間を確保し、全員が体験できるようにしていく。
専科	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の思いや意図をもつことが難しい。 <p>【図工】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットの活用について、どの学年も主に画像検索を使用しているが、スキルの違いで検索結果に大きな差が出ている。 	<p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲について気付いたり感じ取ったりしたことを、オクリンクプラスを活用して交流することで、友達の気付きや考えに触れながら自分の思いや意図をもてるようにする。 <p>【図工】</p> <ul style="list-style-type: none"> 検索ワードの選び方や他の言葉での検索などをアドバイスし、最適な検索の仕方を児童と共に試していく。